

就活 Q&A

◎インターンシップ

Q：インターンシップの探し方を教えてください。

A：情報が6/1に解禁されますので、まずは合同説明会などに参加してみましょう。

リクナビ、マイナビなどの就活支援サイトや会津大学キャリア支援システムを利用して探すこともできます。地域、日程、内容など希望の条件で検索してみてください。

また、大学に直接寄せられた情報につきましては、会津大学 Web サイト内の「在学生・教職員の方へ」>「就職支援」>「(2) 就活情報/就職情報ポータルサイト」からご覧いただけます。

Q：インターンシップには必ず参加しなくてははいませんか？

A：いいえ。学業などで忙しい場合、必ずしも参加しなくてはいけないものではありません。また、インターンシップ経験がないために採用に結びつかないということもあります。ただし、インターンシップに参加することで、以下の2つの意味で就職活動に取り組みやすくなるというメリットがあります。

①実感を持った業界研究/職種研究/企業研究が行える。

まだ志望業種などが決まっていない人にとっては、より多くの仕事について触れることのできる機会となります。オンライン 1day 仕事体験など気軽に参加できるプログラムも増えていきますので、積極的に利用して、就職活動が本格化する前に方向性を見出せるようにしましょう。

また、ある程度志望業種などの方向性が決まっている人にとっては、5days 以上の比較的長期のプログラムに参加することで実際の仕事を体験する機会とし、よりよい就職活動や入社後のミスマッチ防止につなげることができます。

②早期に選考の情報を知ることができる。

一部企業においては、インターンシップ参加者を対象として、採用活動解禁を前に早期説明会や早期選考の案内を行うことがあります。そのような企業を志望する場合には、企業 HP などからこまめに情報を取得するようにし機会を逃さないようにしましょう。

◎企業の選び方

Q：会津大生の主な就職先を教えてください。

A：コンピュータ理工学を専門とする大学の特徴として、情報系企業や電機/機械/自動車等メーカーの技術職が非常に多くなっています。詳しくは別添「主要企業リスト」をご覧ください。

もちろん、毎年、文系職や公務員/教員を目指す学生もおり、IT 関連以外での就職をする学生も一定数おります。

また、近年のデジタル化促進の社会情勢に鑑み、いわゆる IT 企業以外からの IT 人材への需要が高まっており、会津大生の就職先はより幅広くなる傾向が見られます。

Q：志望業種/志望企業が絞り込めません。

A：前述のインターンシップの機会を活用するのもひとつの方法です。

加えて、大学でも様々な機会を用意しています。キャリアデザインⅡの履修や学内合同企業説明会への参加など、ぜひ豊富な機会を活用してください。大学の授業やイベントに協力的な企業=会津大生の採用に前向きな企業ですから、より皆さんの志望にマッチしやすく、よい出会いになるのではないかと思います。

また、考え方として、志望業種を決めた後に志望企業を決めるという手順にとらわれてはいませんか？それも一つの方法ではありますが、人によって就職で重視するポイントが違う以上、志望の絞り込み方も人それぞれです。魅力的だと思える1社との出会いから、その魅力に共通する他社を探していくことで志望業種が見えてくるといこともありますし、職種（やりたいこと）から考えて「これができる業種/企業はどこだろう」という業界研究/企業研究もひとつの方法です。

◎エントリーシート対策/面接対策/その他選考対策

Q：よく聞かれる質問はありますか？

A：就職活動において、よくある質問は次の3つです。

- ① 自己PR
- ② 志望動機
- ③ 学生時代に力を入れたこと

この3つについてまったく触れない企業はありませんので、リクナビのOpenESなどを利用して、早めに準備を進めるようにしましょう。

このほか、研究内容や将来のビジョン（5年後、10年後の自分）なども、よく聞かれる質問です。

Q：志望動機がうまく書けません。

A：自分自身に「なぜ」と問いかけ、それを文章にしてみましょう。

志望動機がうまく書けないひとつのパターンとして、志望動機=企業の特徴の説明になってしまっているものが見受けられます。企業研究はしっかりしているけれど、自分に対する「なぜ」が不足しているケースです。

例えば、「貴社は常に最新の技術を追い求める企業だから」では、その企業の説明をしているだけであり、“あなたの”志望動機にはなりません。“あなた”は「なぜ」最新の技術を追い求める企業で働きたいと思うのでしょうか？その「なぜ」をしっかり書くことで、おのずと説得力のある志望動機となります。

Q：面接で緊張してしまい、うまく話せません。

A：面接は誰でも緊張するものです。緊張するのが当たり前であって、緊張=悪いこと、ではありません。「緊張している。どうしよう」と自分で自分を追い込んでしまうのが、よくないのです。ほどよい緊張感があるとかえって頭が冴えたりしますので、「よい緊張ができているな」くらいに思っただけでよいです。緊張を恐れなくてください。

ただし、準備不足により緊張するケースもありますから、エントリーシート/履歴書などの提出書類に書いた内容の再チェックと深掘りなど、事前準備を十分に行うことも重

要です。

Q：選考において、成績は重視されますか？

A：就職に関して、成績そのものが問われることはあまりありません。成績証明書の提出を求められることもあります。参考程度と考えてください。

ただし、身に着けた専門知識そのものや真面目に学業に取り組んだ姿勢などは評価の対象となりますので、成績が良いということは十分自己PRになります。

また、筆記試験やプログラミングテストなどを課す企業もありますから、一定以上の学力は身に付けておくべきでしょう。

Q：筆記試験はどの程度準備が必要ですか？

A：SPIなどの適性検査は準備なくとも解ける内容も多いですが、制限時間があることによって焦って実力を発揮できないということもあるようです。問題集を1冊解いてみるなどして問題に慣れておく必要があるでしょう。

また、独自の筆記試験やプログラミングテストを課す企業もありますので、日ごろの学習をおろそかにせず、会津大生として期待される基礎知識をしっかりと身に付けておくようにしましょう。

◎オンライン対策

Q：オンライン面接で気を付けることはありますか？

A：身だしなみや姿勢などは、通常の面接時と同様と考えればよいですが、オンラインの場合、特に以下の点にも気を付けましょう。

① 背景や周囲の音

映りこむ背景を整理整頓しておくことや、周囲の音がうるさくない環境かどうか事前に確認するようにしましょう。状況に応じて、マイク付きイヤホンやヘッドセット、バーチャル背景を活用することも考えられますが、その場合は、ビジネスシーンにふさわしい背景であるか注意が必要です。

また、顔が暗くなってないかなど、採光にも気を付けましょう。

② PC 環境

通信状態は必ず事前に確認するようにしましょう。面接途中で通信が途絶えた場合、やり直しがきかないケースもあります。

また、WEB 会議用アプリのアイコンや ID が面接にふさわしい設定となっているか確認しましょう。

③ 目線

対面での面接と違い、手元に提出書類の写しやメモを用意しておくことは可能ですが、あくまで困った時の手助け用とし、ずっと手元に目線を落として読み上げるようなことのないようにしましょう。

また、カメラは姿勢を正して座った時の目線と同じ高さに来るようにしましょう。見下ろす視線は相手に威圧感を与えますし、顔に影ができるなどあまりいい印象を与えません。

Q：オンライン就活についての大学の支援はありますか？

A：自宅で十分な環境を整えることが難しい場合は、学内施設の貸し出しなども行っていきます。詳しくは、就職支援室にてご相談ください。

また、就職支援室ではオンライン面接の練習も受け付けています。PC環境の事前チェックにもなりますので、ぜひ活用してください。

◎様々な進路

Q：大学院進学と就職で迷っています。

A：メーカーの研究・開発職などの専門性が重視される職種を志望しており、大学での研究を仕事に直結させたい場合は、修士レベルの知識/技能が要求されますので、進学することをお勧めします。学部卒だから研究・開発職に絶対採用されないというわけではありませんが、技術系職種の応募条件として、「修士以上」が求められるケースは見受けられますが、「学部卒のみ」という求人はほぼありません。

もちろん、就職と関係なく「今の研究を深めたい」という理由で進学することもあるでしょうし、修士に進んだとしても、専門性よりも基礎の部分を活かした就職をするということも可能です。学び続けたいのか、早く社会に出たいのか、家族や先生とも相談しながら検討するのがよいでしょう。

Q：公務員/教員と民間企業との併願は可能ですか？

A：可能です。ただし、公務員や教員は筆記試験対策が重要なうえ準備に時間がかかりますので、民間企業の就職活動を並行して行うことにより、肝心の筆記試験対策が疎かにならないよう注意が必要です。また、公務員試験や教育実習などと民間企業の選考が重ならないかなど、スケジュールの管理にも気を付けましょう。

最近では、会津若松市や郡山市のようにSPIでの受験が可能な自治体が出てくるなど、公務員試験の内容に変化も見られます。事前の情報収集をしっかりと行い、早めの準備を心がけましょう。

Q：Uターン/Iターン就職を希望しています。

A：近年、各地域、自治体とも若者の就職支援に力を入れており、自治体関係各課や商工会、ヤングハローワーク、地元新聞社などによる合同企業説明会や就活支援サイト運営が行われています。Uターン/Iターンを希望する際は、リクナビ/マイナビなどの全国的な就活支援サイトに加え、就職を希望する地方の就活支援サイトへの登録も行うようにしましょう。

また、就職支援室外の廊下にUターン/Iターンコーナーがあり、地域ごとに情報がまとめられていますので、一度手に取ってみてください。上記支援サイトの案内に加え、長期休暇を利用してのインターンシップの案内、奨学金返済支援についての案内などもご覧いただけます。

また、福島県内や近県での就職を希望している場合は、大学宛に直接求人案内が来ている場合もあります。会津大学 Web サイト内の就職情報ポータルサイト（「在学生・教職員の方へ」>「就職支援」>「(2) 就活情報/就職情報ポータルサイト」）や、会津大学キャリア支援システムを有効に活用しましょう。

◎学校推薦

Q：学校推薦での応募方法について教えてください。

A：会津大学における学校推薦応募の流れは次のとおりです。

就活解禁直線ガイダンス（2月中旬開催予定）

- ・改めて応募方法の説明を行うとともに学校推薦求人一覧をお示しします。



応募検討/資料閲覧（就職支援室）

- ・学校推薦求人一覧を検討の上、応募を希望する際にはまずはその旨を就職支援室に申し出てください。事前予約の上、求人票等資料を閲覧し、企業ごとの応募条件や締め切り日など各自確認しましょう



申請書作成/面談予約（就職支援室）（3/1 受付開始）

- ・申請書を作成するとともに、就職支援室での面談を予約してください。
なお、申請書には指導教員の推薦文およびサインが必要です。学校推薦を希望していることを、あらかじめ相談しておくようにしましょう。



学校推薦面談（就職支援室）

- ・申請書をもとに、学校推薦してよいか面談を行います。



学校推薦決定（学生課）

- ・申請書および面談時の評価をもとに推薦を決定します。
学校推薦者決定のお知らせは、学生課より企業宛に行いますので、その後の選考については企業からの指示に従ってください。
なお、申請から推薦までは約1週間を有します。企業ごとの締切日に留意し、早めに就職支援室に連絡をしてください。

なお、学校推薦での応募には、次の条件を満たしている必要があります。

- ① 第一志望であること（応募後の選考辞退、内定辞退はできません）
- ② GPA2.6以上（学務システムから自分で確認してください）

また、前年度の学校推薦求人一覧は大学 Web サイトからも確認できますので、「在学生・教職員の方へ」>「就職支援」>「(8) 学校推薦」からご覧ください。

Q：学校推薦で応募したほうが有利ですか？

A：志望度の高さを伝えることができるという意味で有利ともいえますが、同じ「学校推薦」と言っても企業によってその重要度は違っており、主に次の3つに分類されます。

- ① 主に研究・開発職など専門性を重視する職種で、学校推薦のみで応募を受け付ける。大学での研究内容と入社後期待される専門性のマッチングが重要視され、入社後の配属先が保証されているケースが多い。
- ② 学校推薦を得ていることにより、書類選考が省略されたり、面接回数が少なくなったり、選考で優遇される。そのほか、交通費が支給されたり、応募から内定までの期間

が短縮されたりといったメリットがあるケースも。

- ③ 内定辞退を防ぐために学校推薦を求める。自由応募に対して後付けで推薦状の提出を求めるケースも見受けられる。

志望企業の志望職種が①に当てはまる場合、学校推薦は必須ということになりますので、早めに準備を進めましょう。②の場合も自由応募に比べて明らかに有利と言えますので、志望度の高い企業から学校推薦が来ている場合には利用をお勧めします。③の場合は、自由応募に比べてのメリットがあまりないことに加えて、他社の選考に対する足かせになる可能性があります。慎重に検討するようにしましょう。もちろん、志望度の高さのアピールにはなりますから、第一志望の企業であれば利用するのもよいでしょう。

各企業の学校推薦がどのパターンに当てはまるかは、求人票により判断することが可能ですので、早めに就職支援室に申し出て確認するようにしてください。

また、学校推薦を利用したからと言って必ず内定につながるというものではありませんので、筆記試験対策や面接対策など自由応募同様しっかり行う必要があります。なお、本学における学校推薦利用者の内定率は3割～5割程度です。

◎内定承諾

Q：内定と内々定の違いは何ですか？

A：就職問題懇談会の要請などにより正式な内定日が10/1以降とされているため、時期によって「内々定」と「内定」で言葉を使い分けている企業がある、というのが正直なところで、内容に違いはありません。10/1以前に内々定と言われた場合には実質内定です。内々定のほうが内定よりも拘束力が低い、あるいは、企業都合での取り消しが可能ということではありません。

Q：いったん内定を承諾したら、その後絶対に断れませんか？

A：承諾後に内定を辞退した場合、学生側が法的な責任を問われることはありません。ただし、そのことにより企業側に採用計画の見直しの必要が出てくるなど、多大な迷惑をかけることになる可能性があります。承諾後の内定辞退は、社会人としてのマナーの問題、学生と企業との信頼関係の問題、場合によっては大学と企業間での信頼関係の問題ということになりますので、内定を受諾する際には慎重に検討しましょう。

一方、早期に内定承諾書（誓約書）の提出を迫ったり、他社の選考をすべて辞退することを内定の条件としたり、一般にオワハラ（就活終われハラメント）と言われる悪質な行為を行う企業も見受けられます。対応に困った際には、就職支援室または学生課まで相談してください。